

耐震診断の評価の結果と構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性の評価

表中の「構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性」については、震度 6 強から 7 に達する程度の大規模の地震に対する安全性を示します。
 いずれの区分に該当する場合であっても、違法に建築されたものや劣化が放置されたものでない限りは、震度 5 強程度の中規模地震に対しては、損傷が生ずるおそれは少なく、倒壊するおそれはありません。

耐震診断の方法		構造耐力上主要な部分の地震に対する安全性		
		I	II	III
		大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が高い。	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性がある。	大規模の地震の震動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い。
○	一般財団法人日本建築防災協会による「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」に定める「第 2 次診断法」及び「第 3 次診断法」(2001 年版)	$I_s / I_{so} < 0.5$ 又は $C_{tu} \cdot S_d < 0.15 \cdot Z \cdot G \cdot U$	左右以外の場合	$1.0 \leq I_s / I_{so}$ かつ $0.3 \cdot Z \cdot G \cdot U \leq C_{tu} \cdot S_d$

附表に掲げる耐震診断の方法のうち、「○」印のある方法における安全性の区分については、補正係数(表中の U 及び I_{s0} を算出する際に用いる U) を 1.0 とした場合を示しています。